

## 九州教区組門徒会研修計画

- 【趣 旨】 各組にて組門徒会員の願いを確かめ、真宗門徒として学びを深める。
- 【講 師】 組教化委員会等で選定する。
- 【テキスト】 『真宗の教えと宗門の歩み』（出版部発行の組門徒会研修テキスト）  
その他、必要に応じて研修課題に即した資料やテキストを使用する。
- 【対 象】 組門徒会員
- 【実施回数】 年1回以上で組ごとに設定。任期3年間で3回以上の研修を行う。
- 【本廟奉仕】 任期中に組門徒会本廟奉仕を実施していただきたい。（上山期日は各組、ブロックで検討）
- 【帰 敬 式】 帰敬式の意義を学び、帰敬式を受式する。
- 【会 場】 組内寺院、その他。
- 【実施単位】 組単位やブロック単位を各組の実情に合わせて設定し実施する。
- 【実施方法】 ①事前に組長・組門徒会長を中心に打合せ会を開催し以下のことを協議する。  
（開催趣旨、研修内容、開催期日、日程、講師、運営、案内、役割分担など）  
1. 任期初回の研修では下表「組門徒会の役割と使命について」の研修の場を持つ。  
※改選後初回の組門徒会研修を計画 or 実施済みの組については、2回目に上記テーマでの実施推奨。  
2. 2回目以降の内容については下表を参考に組で企画する。  
その他「本山テーマ」や「教区教化テーマ」、九州教区内の地域の特色・課題（非核非戦、かくれ念仏など）を取り入れるのも良い。
- ②研修日程中、座談会（自己紹介を含む）を行なうのが望ましい。
- ③必要に応じて、全体協議会を行なう。  
（協議内容例）・組門徒会本廟奉仕について・寺院、組における組門徒会員の具体的活動について
- ④組主催であるが教区との連携をもって行う。
- 【助 成 金】 教区助成：組内御依頼寺院数×4,000円 本山助成：30,000円

### ※実施例

	研 修 テ ー マ	内 容	テキスト
1 回 目	組門徒会の役割と使命について	◇ 宗憲、並びに関係規則（教区制、組制、門徒条例、真宗同朋会条例）を学びながら、寺、組（地区）、教区、宗門の組織機構について確認し、組門徒会の役割や使命、課題を確かめる。 ◇ それぞれの寺院がどのように運営されているのか、寺院の実情や、寺院を取り巻く環境について話しあう。	宗憲前文 および P12～P13 P154～P188
2 回 目 以 降	真宗同朋会運動とは	◇ 真宗同朋会運動が提起された趣旨に学ぶ。 ◇ 私にとって真宗同朋会運動とは何かを考え、現代という時代社会に生きている私たち一人ひとりの日常生活や日常意識を、真宗の教えにたずねる。	P15～P24
	宗祖親鸞聖人のご生涯	◇ 宗祖親鸞聖人の生涯に学ぶということは、歴史上の親鸞聖人の生涯を学ぶことにとどまらず、本願念仏の教えに目覚められ、自らの現実を生き尽くされた聖人の生涯を学ぶことにより、私たち自身の生活のあり様を明らかにする。 ◇ 「宗祖」とは何かを考える。	P25～P53
	真宗の教え —『正信偈』に学ぶ—	◇ 私たちが身近にいただいている『正信偈』について学び、私たちが毎日いただいている意義を考える。 ◇ 親鸞聖人が頭かにされた本願からはじまる仏教の伝統を学び、真宗のみ教えに自分を学ぶ。	P55～P86
	真宗門徒の生活 —お内仏のお給仕—	◇ お内仏の前に身を置き、合掌して南無阿弥陀仏と念仏申しお給仕してきた真宗門徒の生活の伝統に学ぶ。 ◇ お仏壇からお内仏へ。 ◇ 帰敬式を受式し、法名を名告る意味を学ぶ。	P87～P106
	宗門の歩みと 同朋会運動の今	◇ 私たちの宗門は、時代を貫いて実生活の中で念仏に出遇った人々により形成されてきた。その宗門の歩みをとおして念仏の僧伽（サンガ）とは何かを学ぶ。 ◇ 5回の学びを踏まえて、私にとって真宗同朋会運動とは何かを考える。	P107～P150